



第15回例会報告 *通算例会回数4199回目* (11月7日 於 今治商工会議所2階 大会議室)

【出席報告】

・会員数 51名 ・出席数 29名 ・欠席数 22名
 ・当日出席率 57.14% ・前々回修正出席率 100.00%
 <欠席会員>阿部、平田、廣川、片山、木村(敏)、木村(雅)、小堀、河野、久米、宮道、西本、岡本、志尾、齊藤、埋見、渡辺
 八木(正)、八木(真)、八木(伸)、矢野、米北
 [免除会員] 檜垣(巧)
 <10/19 欠席補填>(10/22 今治南)平田、近藤、向井、宮道、八木(正)、吉田

◇**会長報告**・11月1日(金)90周年の御礼をかねて大阪RCにメイクアップしてきました。今治RCから来ていると皆さんの前で紹介していただいて非常に嬉しかったです。また75周年の時に…80周年の時に行きまして声をかけて頂き色々話していましたが、やっぱり長い年月を重ねたクラブの方々から良い関係ができていくものなんだと改めて少し感動しました。

◇**幹事報告**・11月のロータリーレートは1ドル153円となっております。

・例会終了後、大会議室にて10月定例理事会を開催いたしました。

・【事務局お休みのお知らせ】11月8日(金)は事務局午後半休です。

◇**親睦活動委員会・お誕生日スピーチ**・大澤正尚会員：今治RCに入会させていただいたおかげで私の人生は大きく変わり、楽しく豊かなものになりました。元気な限り現役でおりますので皆さんよろしくお願ひします。▼渡邊道信会員：72歳になります。入会して32年…これからも元気に頑張っていきたいと思ひます。▼片山泰志会員：誕生日祝いありがとうございます。いい夫婦の日(11/22)で64歳になります。▼佐々木達耶会員：36歳になります。来年はちょっと気を引き締めて、健康に気をつけて過ごしていきたいと思います。またよろしくお願ひします。

★ 職場訪問例会のご案内 <令和6年11月21日(木)午前中締切>★

日 時：令和6年11月28日(木) 【場所：タオル美術館】

スケジュール：11：45～ 到着された方から玉府井にてお食事(※王府井スペシャルセット)

➡ 12：30～例会 ➡ 12：45～ 職場説明(タオル美術館について) ➡ 13：10～ タオル美術館 館内案内 ➡ 13：30 終了

クラブ活性化セミナー報告

◆**村上裕一**会長：今回のクラブ活性化セミナーはテーマが①ロータリーの危機管理②アクションプランチャンピオンについて③会員増強の実例説明と3点ありました。私は①ロータリーの危機管理について報告させていただきます。

▼ロータリーの危機管理について説明されたのは、西宮イブニングRCの黒田健一さん(弁護士)という方です。この方は2680地区危機管理委員長であるとともにRIJYEM(一般社団法人国際ロータリー日本青少年交換他地区合同機構)の委員でもあるそうです。日本全国のガバナーが集まる研修会でこうした講演を行っているそうで、当地区夏見ガバナーが依頼して、今回の講演に至ったようです。▼まずロータリーの危機管理の危機とは自分や自分の組織にとって好ましくないことの全て(事故・暴力・自然災害・政情不安・伝染病の発生・ハラスメント・会計問題・内部不和・雇用問題・個人情報保護・サイバー攻撃情報操作など)ということで特にハラスメントの件について説明をされました。RCにもロータリーにおけるハラスメントの定義というものがありロータリー章典に記載されています。『ハラスメントとは大まかに定義すると個人またはグループをあらゆる特性(属性・年齢・民族・人種・肌の色・能力・宗教・社会経済的地位・文化・性別・性的指向または性自認)に基づいて、言葉であれ身体的であれ、中傷、侮辱または攻撃する言動を指す』という定義には意図があるかどうか、つまりこのハラスメント的な行為が正しいのか、わざとなのかということについては触れていません。ハラスメントとみなされる言動を意図せず行ってしまう可能性というのは誰にでもあるとは思いますが、仮に冗談のつもりで行ったことだとしても、それは言い訳になりませんということだと思います。そもそもロータリアンはハラスメントに対してどうあるべきかということも実は章典に記載されています。●ロータリーや他のロータリアンの評判を落とすような言動は避ける。●ロータリーの会合、行事、および活動においてハラスメントのない環境を維持することを支援し、ハラスメントの疑いがあれば報告し、ハラスメントを報告した人への報復が起らないよう確認するというのが基本姿勢だそうです。▼黒田さんはRIJYEMの委員をされてることもあり、実際に青少年に対するハラスメント被害報告が多く、青少年を中心とするハラスメント関連規範について力を入れて話されていました。特に、虐待およびハラスメントの防止と報告手続きについてと話されていた内容が、我々にとっても気をつけた方がいい内容だったのでお伝えします。どういことがハラスメントとして報告されてるかということ、例えば女性の米山奨学生を会員が飲み会に呼び出し、酔った男性会員に体を触られたり、飲酒を強要されたりするようなことなど…断りにくい人間に対して行う卑怯な振る舞いだ、黒田さんはおっしゃってました。青少年に対するハラスメントが起きた場合、RIはハラスメント、特にセクシャルハラスメントについて大変厳しいポリシーを持っており、『ゼロ・トランス』つまり容赦はしないと明言しています。また『72時間ルール』というものがあり、ハラスメントなど発生して申し立てがあった場合72時間以内にRIに報告しなければなりません。怠ると地区青少年交換参加資格停止、関係者が青少年プログラムへの参加禁止や身分停止がありうるそうです。これが大人同士のハラスメントなどあった場合は、RIはクラブ活動停止…クラブの活動は認めませんという話で、あ

るRCで起こったことはそれだったんじゃないかなと思います。それ以外にも申し立てがあれば警察や地区・RIにすぐ報告し指示に基づき第三者による調査を行わねばならずつまり捜査や調査によって有罪となったロータリーアンは会員の身分終結措置と併せて方針の遵守を怠ったことを理由にクラブの加盟を終結する措置を講じるとRIは言っています。青少年以外のハラスメントについては、72時間ルールはないですが申し立てに対する判断は1ヶ月以内に行う必要があります、また対象者は会員・プログラムの参加者だけではなく、事務局の人も含まれることはちゃんと念頭に置くようにと、被害者の方が警察への相談と地区やRIと先にクラブからの結論が出る前に協議して可能性もあるということをご想定しておくべきだとおっしゃっていました。▼最後にハラスメントが生じる原因として挙げられていたことを抜粋します。ハラスメントに対する認識の向上は被害者だけに任せるべきではなく、私達自身が意識を高めなければならないということです。ハラスメントが生じる原因としては、加害者の主観的価値観と周りの価値観がずれているということ…①自分の善意で良かれと思うことが、相手方にはそう限らない⇒人間関係をつながりや相互作用ばかりの視点で捉えては駄目だということ。②倫理感の変化が頭ではわかっている、過去習得した知識や振る舞いがそのまま出てしまう⇒バイアス(無意識の偏見)の自覚がないから加害者の弁明が一方的主張になってしまい説得力がないということ。③価値観の判断がずれていけば、それ単なる犯罪や嫌がらせに過ぎないということ。DEIってよく言われていますが、他人の多様性を知って意識すれば仮誰かを不快にさせてしまう可能性は少なくなるのではないかと…。誰かに言動を注意されたら言い訳をする前に、まず自分の言動を振り返りそこから学び変えていく努力をしなければならないというお話でした。

◆板脇俊匡会員：私が発表するのは3テーマの内②アクションプランチャンピオンについて③会員増強の実例説明です。今回セミナーで学んだことを発表させていただく機会を頂きまして本当にありがとうございます。▼当日は楠橋幹事の運転で、9時半に今治を出発、お昼は丸亀で天下一品のラーメンを食べてセミナーに参加しました。会場では丸亀RCの方が受付を担当されていました。席はほぼ中央当りのPGの皆様の真後ろで壇上がとても見やすい場所でした。内容をまとめるにあたり参考になったのはマイロータリーでした。マイロータリーの中には非常に有益なR情報や色々な学びのプログラムが多種多様にありとても充実したもので、セミナーで不明だった点はマイロータリーから補完しました。▼②アクションプランチャンピオンについてです。当地区アクションプランチャンピオン・行動計画リーダーである前田直俊PGのお話でした。まず初めに『Japan portal Site』の紹介がありました。これは地域やクラブへの情報提供・情報共有をスムーズに出来るようサイトを作成したとのことで、マイロータリーに加えこちらも活用してくださいとのことでした。現在RIがどこに向かおうとしているのか、またその為に各クラブに何を求めているのか、その方針が良くわかるものとなっています。▼次にアクションプランつまり行動計画についてでした。…今年7月1日をパイロット開始つまりトライアル期間の初年とし3年間の目標をフォーマットに記入し、その実現の為に地区やクラブに対して理解と協力を要請しています。当クラブは今年の4月に本年度分と来年度分の目標を設定しておりますが、本来は3か年計画であるということです。そして2024年から2027年世界的に3year rolling goals(rollingとは年度ごとに見直すという意味)実施して、プログラムの実績を評価検証する年として2027-2028年を『パイロット評価年』としています。またある程度目標を達成したクラブには「クラブ優秀賞」などがもらえるそうです。ロータリーが時代に適応して具体的に変わっていくためにRIの提唱する3年計画を「新たな挑戦のチャンス」と捉えて実践しましょうという事でした。ガバナー公式訪問時夏見ガバナーの卓話にあったようにロータリーの会員数は年々減少しており、RCの今後のクラブ活性化と発展のためにも、いま構造改革・意識改革が必要な時期なのだと感じました。▼3年間の目標設定は「行動計画」の四つの優先事項(大きなインパクトをもたらす・参加者の基盤を広げる・参加者の積極的なかわりを促す・適応力を高める)に基づいています。この四つの優先事項は世界のロータリーアン500名程の委員が知恵を出し合い2018年に制定されたもので、その時点では5か年計画とされてきました。計画を立てる前に「クラブの健康チェック」と「会員満足度調査」を行いクラブの現状を把握した上で、クラブに即した3年計画を立てることになります。どういう手順で3年計画の目標を設定するかというと【クラブセントラルへの次年度目標入力…目標入力と管理はクラブセントラルで行う】⇒【3年間の目標フォーマットの入力…フォーマットをDLし3年間の目標を項目に従い入力し、クラブ内で協議、理事会の承認を経て会員全員で共有する】⇒【クラブ戦略計画の立案…戦略計画立案ガイドに沿って、3年間の戦略計画を立てる】⇒【目標設定の見直し…毎年目標の達成度を検証、必要に応じて次年度以降の目標と戦略計画を再設定(rolling goals)する。】⇒【クラブ行動計画推進リーダーの選任…目標の達成を推進するために選任する】とこのように珠に来年度以降はRI方針に則った計画の活動方針や、より集約したクラブ委員会構成に移行していくと思われるので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。▼次に③会員増強の実例説明です。高知南RC加藤敏仁高知第I分区G補佐から『増強のマジック～高知南RC方式から～』と題しての話でした。会員増強は古くて新しいテーマであり達成が困難な目標といえます。高知南RCは1995年時点で68名の会員が2012年に46名まで激減。2014年から劇的な会員増に転じ、現在では85名の会員に…どうやって増やしたのか会員増の取組を紹介しておりました。増強方法の程案の結論として①自らが旗振り役となる②理想の会員数を明確にする③クラブの10年後を議論するとあげておられました。結果「楽しくない」が「楽しい」に変わった。これが増強のマジックであるとお話でした。素晴らしい取組を勉強させて頂きました。

次回例会(11月14日)

【 清掃奉仕・早朝例会 】

日時：2024年11月14日(木) 早朝6:30清掃開始、7:00例会開始

場所：市民の森 フラワーパーク **【第2駐車場 売店前集合です】**

※例会後、パンと飲み物をご用意しております。

雨天の場合は7時より例会のみ開催。ロータリーバッジの着用をお願いします。